

盲導犬訓練センター見学会 役割や訓練方法を学ぶ

神奈川代協会員約30名が参加

神奈川代協は12月9日、盲導犬訓練センターの見学会を実施し、代協会員など約30名が横浜市盲導犬の役割、訓練方法の公益財団法人日本盲導犬協会神奈川訓練センターを訪れた。



アイマスクつけ体験

見学会では、同センターのインストラクターのスタッフが施設の概要や盲導犬の役割、訓練方法などについて説明したほか、実際に視覚障がいを持ち盲導犬を利用しているメンバーが、3つを利用者に教えることとだけだと、スタッフは説明。「盲導犬が目的地まで導いてくれるというイメージがあるかもしれ



会員から募った寄付金を贈呈

ないが、道順を指示するのは利用者であるため、周囲の人の協力も非常に大切になる」と話した。

当日は、参加した代協会員数名が実際に、アイマスクをしながら白杖(はくじょう)を手を歩いたり、盲導犬と歩いたりすることを体験。「白杖を振ると左右の障害物の場所がわかるが、上下の障害物の有無がわからないので怖かった」とアイマスクをしている

「人が通れない障害物」

「段差」「曲がり角」の

「アイマスクをしていないと盲導犬の存在がすぐと頭数が追いついていない状況が長年、続いている。世界での盲導犬の数をみると、アメリカの約1万

また、この日、神奈川代協からは会員代理店から募った寄付金を同センターに贈呈。同代協CSR委員長の村上雅人氏は「障がいのある方の助けになるような盲導犬を育成していただきたい」と話した。

盲導犬に関する調査によると、日本で活躍する盲導犬の数は約1000頭。一方で、盲導犬の利用希望者は約3000人

頭をはじめ、イギリスで4600頭、ドイツで1500頭となっており、日本での盲導犬の不足への対応が急務となっている。

救命講習会を開く 会員ら40名超参加

岡山県代協

岡山県代協は12月5日、岡山市中消防署で救命講習会を開いた。講習会は毎年1回実施しており今年で9回目の開催となった。今回は代協会員や保険会社社員、地域住民など40名超が参加。消防署の救命指導員から、救命に関するAED心臓マッサージ、骨折の対応、幼児の対応などについて約3時間、講習を受けた。



救命指導員からAEDの操作など学ぶ

がAEDの操作方法を学び、体験したほか、のどに物を詰まらせた幼児への対処方法や心臓マッサージの仕方などを学んだ。

岡山県代協では今回の取り組みについて「一般の参加も多くの代協のいろいろな活動を知らせてもらう機会にもなりまし

た。今後もこの講習会を続けていきたいと思えます。講習終了後、終了証を渡されるみんなの顔は自信にあふれたいい顔でした」とコメントした。